

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100022		
法人名	日本ロングライフ株式会社		
事業所名	ラビアンローズ宝塚		
所在地	宝塚市泉町6-6		
自己評価作成日	平成25年4月2日	評価結果市町村受理日	2013年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2013年4月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の居宅での生活リズムをそのままに、家庭的な雰囲気の中、お一人お一人に寄り添い、ゆったりとした生活を送っていただいている。
 お客様に心地の良い環境をご提供するため、その方の文化と背景、心地よい空間、質の高い身体ケアという三つの要素を取り入れお客様それぞれに合ったサービスを提供している。
 GFC(グッド・フィーリング・コーディネーター)という独自に発展させたケアの手法によりお客様の愉しみからライフスタイル全般まで、プログラムや環境をプロデュースする全人的ケアを行なっております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宝塚の名にふさわしい手作りのガーデニング、広々としたエントランス、そして人懐っこい愛犬の出会いにほっと癒される。ケアするのではなく、ここでの生活を楽しみ、自分の家として安心してくつろいでもらうことを前提に、その人にとっての最良の環境を整えている。職員は利用者の人としての尊厳を大事にし、温かく見守り、利用者が自分の思いや感情を自然に現わせるよう会話を重視し、寄り添う時間を多く持つよう心がけてもいる。それが利用者の自然な笑顔となり、そのことが職員の励みともなっている。認知症を持った方とは思えないおだやかな表情やはつらつとした様子を通じて、法人独自の環境整備や手法等を地域にも還元していかれてはどうか。地域との関係性を深めるきっかけに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、地域の特性に応じた柔軟なサービス受けられるように開かれたグループホームとするため、地域住民・ボランティア団体等との連携・協力を行い交流に努めている。「老いることは楽しいこと」をサポートに朝礼時に会社の基本理念を唱和し、入居者に安心と尊厳のある生活を営めるよう取り組んでいる。	利用者を介護される人ではなく、一人の人としてお客さまとして接し、介護ではなくサービスの提供を主目的としている。職員は気づき、思いやり、笑顔を大事に、その人らしいすばらしい人生のための支援を目指している。今の利用者の状態や思いを知り、日々の些細な変化も見逃さないよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣とのご挨拶を絶やさぬように心がけボランティアによる行事や近隣の清掃などを行っている。自治会との交流を持ち、お互いに協力体制をとっている。運営推進会議の参加者として、自治会長や民生委員の方などとの連携を深めていきたい。	地域のおまつりや季節行事にはできるだけ参加し、自主的に近隣の清掃活動も行っている。地域住民には、積極的に挨拶を交わし、馴染みの関係性を深めるよう努めている。事業所主催行事の案内ちらしの配布も地域代表者を通じて行っている。現在、中学校にトライやるウィークの打診中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの機能を地域の高齢者に還元できることがあれば、可能な限り対応する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会社の現状報告・ホームの活動状況報告、イベントの報告、外部研修参加の発表、自治体からの情報など報告させて頂く。また、ご家族様からのご要望・質問等をお聞きし、ご意見を取り入れたサービス提供に努めている	事業所と併せ、法人としての現状、事故等の報告、利用状況等、できるだけ情報を公開し、そのことで理解を深めるよう努めている。買物サロンや訪問美容、プチセミナー等、多様な情報提供もしている、イベントホールの活用も提案し、新たな機会の創生へも検討している。	地域代表者の出席がままならない状況ではあるが、日程の調節等、少しでも参加してもらえる機会の検討を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町との連携を密にとり、広報活動など協力している。地区市民ネットワーク会議への出席。(cf 認知症の方をサポートするための社会的資源についての検討)	行政、地域包括との連携の必要性は認識しており、事業所としても積極的に働きかけていきたいと考えている。こまめな情報交換を図り、協力関係を深めていこうとしている。ケアマネ協会での交流を活かすことも模索している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	法人内研修はもとより、会議等でも個々の対応について職員の周知に努めている。入口の門の開閉は、職員の操作によるが、利用者が外出する際や要望等を察知し、閉塞感軽減に向け自由に出入りできるよう配慮している。	門を開放することは、地域への事業所としての姿勢を示すことにもつながると思われる。開放可能な時間帯について、検討の余地はないだろうか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・拘束ゼロの教育を徹底している。転倒など事故時に打撲痕確認はもちろん、入浴時、更衣介助時、往診時に内出血痕の有無を確認する。	虐待の基本的内容の徹底及び声かけ等は、特に重視した研修を行い、利用者の観察にも注視している。職員間でも日々業務内で繰り返し確認し、意識を高めるよう努めている。職員間でのチーム連携の体制強化を図っている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解を深め、必要に応じて支援・協力をしている。	契約時等、必要に応じ情報提供や資料を配布している。家族の状況や要望に応じ、相談等もしている。職員は、制度等について学ぶ機会も持ち、事例を通して具体的に理解を深めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社担当者とともに十分検討し契約時の全書類の説明・同意を得ている。解約時には相談を繰り返し行い、同意を得ている。	費用等や日々のケアに関することは、法人担当者及びケアマネが説明するが、一貫してホーム長が最後まで関わり、納得のいく説明を心がけている。利用者及び家族の意向や医療機関の選定等、納得いくまで話し合い、丁寧に対応している。見学、体験にも応じている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご意見はモニタリングやご家族様からのご意見を通してお聞きし、反映に努めている。運営推進会議に併せてご家族様の歓談会の時間を設け、ご意見を運営に反映できるよう努めている。入居後3ヶ月アンケートを実施し、ご家族の意見により改善に努めている。	利用者本人からの意見が困難な場合が多く、家族を通じて相談を受け、意向の反映に努めている。運営推進会議等の出席家族からは、気が付いたことや感想が出される。普段の来訪も多く、食事を介助されたり、一緒に過ごすこともあり、随時相談等も行っている。来訪が難しい場合は、メールにより情報交換している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・リーダーを中心にミーティングや朝礼で話しを掘り下げて聞き、提案の検討や解決策などを導くようにしている。	各フロアリーダーから現場職員の意見を吸い上げ、全体会議等、定期的に意見や提案を集約し反映に努めている。常に利用者の特性や状態を優先し、必要な用具類についても、職員からの提案を基に積極的に取り入れていくようにしている。意見が云いやすい雰囲気にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト表をチェックし、無理な勤務体制でないか確認している。職員自身、社員登用制度など積極的に申し込み、前向きな姿勢で日々取り組んでいる。職員と常にコミュニケーションを図り意見を聞き、モチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修・定期的な研修を本社で行なうほか、外部研修への参加も確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の研修に参加、認知症介護の質を向上させる為の実践・実習の勉強会に出席。ケアスタッフが順次実践者研修へ参加予定。社協が主催する勉強会に参加。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご見学の対応時からニーズの把握に努め、面接においてご本人様のお話をお聞きし生活史を理解して、その方が求めている事や一番落ち着ける状況を見出し、安心していただける関係を作るアセスメントに努める。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様にご家族様から得た情報や、ご意向ご要望をお聞きし関係作りに努める。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に、その方にとって必要性の高いものは何かを見極め検討を行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自己決定を尊重し、出来ることはしていただく環境の中で活躍の場面を作り、ともに支えあう関係を築くよう心がけている。それぞれの意欲や残存能力に応じて家事全般(配膳、食器洗い、洗濯物たたみ、おやつ作り)をして頂く		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のニーズに応え、ご案内の発送や啓発するなどの場面や機会を設けている。食事介助や散歩、外出をお手伝い頂いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・電話のご利用支援やご訪問の実現などご希望に応じたサービスを実施している。	家族や知人の訪問だけでなく、趣味を通じた友人やこれまでのお付き合いの継続を支援している。気軽な訪問を促したり、一緒に居室でくつろげるよう声かけを行っている。いただき物へのお礼状や年賀状にも個々に支援している。家族を通じて再来訪をお願いするこもある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	擬似家族をモットーとし、入居者の個性を活かした関係作りを支援している。入居者同士が良好な関係が保てるようにスタッフが介在し、関係づくりをする。座席にも配慮し緊張感を緩和する。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に情報を提供している。年末年始のご挨拶、暑中見舞い、ホームの行事、イベントのご案内等をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを基に、一人一人の思いや、ご意向を把握し、職員が情報を共有し日々のご生活に生かすように努めている。	独自のフェイスシート等を活用し、その人の生活歴や日々の様子から意向を汲み取る努力をしている。引き継ぎである夕礼時に、各職員の気づきや特に利用者との関わりから嬉しかったこと等を報告しあい、反映することもある。日々の関わりを大事にしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に本人への聞き取り、家族への聞き取りを行い情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居前に、ADL健康情報などの現状を把握し、適切なサービスの提供に留意している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様との面談、サービス担当者会議、フロアー会議を開き、意見を反映した計画を作成している。	ケア中心ではなく、その人らしい具体的な言葉で表すことを重視し、その実現のために家族にも協力を求め、共に支えてもらうよう投げかけている。本人の思いを優先したこれまでの生活の継続を目指す計画を作成している。ありふれた生活の営みも活かせるよう工夫している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と共に、連絡ノートを活用して、常に情報を共有するようにし、朝礼時の申し送りにおいても丁寧に行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じた対応を行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に密接した民生委員の方を中心にした交流の中で、連携、協力が出来るように支援している。またご自身の出来る事に目を向け、可能な限りご自身でして頂けるようなサポートに努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を持ち、定期的に往診に来ている。また、急病などの異常発生時における24時間医療連携体制を取っている。さらに、定期往診以外にも眼科などの通院、入院、退院後の通院支援を行っている。	入居契約時にこれまでのかかりつけ医と事業所の協力医について説明し、本人、家族の希望により主治医を決めている。協力医の定期検診が多数で、これまでのかかりつけ医受診は、家族同行で行う。体調の悪い時の通院は、必要に応じ事業所で送迎の協力をし、適切な医療が受けられる支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診に同行し、様々の日々の変化など報告、相談している。また電話でも連絡体制をとっており、適宜指示を頂けるよう支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、後見人様と十分な話し合いを行い、意向を汲み、担当医、看護師とも連絡をいれ連携に努めている。話し合いの中で早期退院希望について理解をいただいている。	入院中のダメージを極力減らせるよう職員が再々面会に行っている。病院関係者に、利用者の普段の出来ること等の情報提供もし、早期退院に向け、家族を含めての連携を密に図っている。早期退院の受け入れについても、医療関係者との連携を図り、準備体制を整備している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご意向や情報の共有に努めている。ご本人様の病状や段階に応じてカンファレンス、ムンテラを行う支援をし、ご家族様、医療、ホームの合意事項を確認する。	契約時、本人・家族と話し合っ、重度化した場合の事業所の対応方針を説明し、納得を得ている。家族の意向を踏まえ、その都度確認している。主治医とも相談のうえ、最善の方法を実施している。職員は家族の協力や日頃の関わりの大切さを認識するとともに、十分に研修を重ね学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当も含め、かかりつけ医、看護師にその都度指導して頂きながら、技術と知識を深めるようにしている。24時間医療連携体制の中、連絡網にて指示できる体制を整えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置済。消防設備の点検を年2回実施している。非常時、火災発生時のマニュアル、連絡網は掲示して徹底している。また消防訓練も年2回実施。運営推進会議などで地域の民生委員の方と交流を図り、協力が得られるように努めている。	消防訓練年2回実施。消防設備点検年2回実施。避難経路の確認と連絡網は掲示されている。各フロアに備蓄もできている。地域の民生委員の方との交流だけでなく、地域住民との協力体制を改革したいとしている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーと尊厳を守る事は、基本理念として徹底し個人情報保護方針を確立している。	利用者のできることを中心に、その人らしさを尊重して、信頼関係を築いている。プライドを損ねない関わりや羞恥心への配慮も信頼関係がベースになっている。職員の言葉かけは、常に敬語で行うこととし、職員間で統一している。個人情報保護方針も確立している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、ご本人の意思表現を促すお声かけや説明に留意しながら、楽しむ、決める、選ぶなどの支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでもご入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支援している。その日その日で体調やお気持ちの変化があるので、臨機応変な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の希望も受け入れながら、ご本人にも選んで頂きその方々の個性を大切にしている。毎月の訪問美容室のほか、ご希望にも対応している。特別な催し物の際には正装して参加して頂きおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材を選び、行事に応じた献立、好みの調査など美味しく食べて頂く工夫をしている。盛り付けや、片づけなども一緒に行い、会話を楽しみながら食事をしている。	調理専門の職員が中心となり、季節感のある食材での行事食や好みの意向調査を反映するなど、おいしく食べれる雰囲気作りが工夫されている。利用者は職員と一緒にエプロンかけで、盛り付けや片付け等を楽しみながらしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズム表に食事量、水分摂取量を記入し、摂取困難や不足気味の方の把握に努め、摂取して頂けるように、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケア、ナイトケア、毎食後のチェックを実施している。入居者の力を引き出しながら口腔ケアを日常的に支援している。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせ、自尊心を傷つけない様に配慮し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの詳しい生活リズム表を見ながら、排泄のパターンを把握して、その人に合せた声かけをしている。失敗の時もあるが、排泄の自立支援をしている。声かけやさりげない誘導には、しぐさで伝える利用者もあり、職員は、特に注意するなど配慮している。ミーティング、申し送り等で共有を図り、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す食事の工夫や適度な運動をとりいれている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴はおおむね週2回であるが、ほぼ毎日入浴の準備をし、入居者様のタイミングに合わせた支援を行っている。	入浴時間、回数は決めず、毎日入浴が準備されている。無理強いはいないようにして、拒否がある人には時間を変えて散歩帰りのタイミングに声をかけたり、スタッフが変わって声をかけている。本人の気持ちを優先し、季節ごとのしょうぶ湯や音楽をかけるなどの工夫で、心地良い時間が提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温かい飲み物を提供するなど自然な眠りに移行できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは入居者が使用する薬の目的や副作用、容量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できるよう支援している。症状の変化を確認しリズム表に記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グットフィーリングコーデイネーターを置き、その方らしさを活かした役割、楽しみに留意し生きがいのある暮らしを支援している。イベントや外出行事の参加を支援し気分転換の機会を持っていただく。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの敷地内に園庭が有り、お散歩など楽しんで頂いているが、お茶菓子などお楽しみ物の買い物の外出にご一緒したり、ご希望に沿った外出の支援をしている。	事業所敷地内にある庭園は見事な花や木立で美しく、ホームを一回りして散歩を楽しむ。利用者の気分転換で近くのお店へ少人数で日用品の買物に出掛けたり、図書館へ行く支援もある。家族と共に普段行けないところに出かけて昼食をとる楽しみや日帰り食事旅行などで楽しむこともある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金制度をとっており金銭の管理は当方でしているが、お買い物時は職員が付添、個々に応じたお金はご本人に所持いただきお支払の見守りをするなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の希望も受け入れながら、家族様、ご友人様への手紙や電話など日常的な利用や取次の支援をしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、緑、水、風、花などを感じて頂ける心地よさをコンセプトとした工夫と、自然の豊かさを楽しんで頂く空間づくりにより雰囲気を感じわっていただいている。懐かしい家具やポスターも飾り、さりげなく回想法を取り入れています。	共有スペースは広く設けられ、どの空間も思い通りに過ごせるよう椅子が設置されている。玄関アプローチには季節の花と小鳥が、廊下では犬とのふれあいがある。畳の茶室も設けられ、居心地良く自由に過ごせる工夫がある。利用者が安心して自然の豊かさを楽しめる雰囲気があり、落ち着いた共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く設けており、自由に行動でき各所に休憩できる椅子を設置し自由に利用頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にも説明しており、思い出深い物、使いたれた物を持参していただき、入居者が安心して穏やかに過ごして頂けるようにしている。	本人、家族と相談しながら使い慣れた家具・寝具類や家で飾っていたインテリアなどを持ち込んでいる。テレビ、額等、できるだけ自宅に近い雰囲気が醸し出され、居心地良く過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすさの工夫や高さの調整などの配慮をしている。		